

第三章 邦人ノ牧農經營ニ就テ

東部内蒙古、土地カ農耕適地トシテ南満洲ニ比シ敢テ遜色ナキハ既知、事實ナリ支那政府ハ疾ウ茲ニ著目シテ頻リニ蒙地ノ開放ヲ逼リ移民ノ獎勵ニ努メ現在縣治ヲ置クモノ實四十三(第二章第三節参照)ノ多キニ達シ開放地面積一萬六千餘方里、既墾耕地三百十七萬五千九百餘町歩ヲ算シ移住漢民ハ殆ト五百萬(戸數約八十五萬)=達セニトス加之近ク更ニ開放地ヲ擴張シ行々省制ニ改メントスル内議アリト傳フ豈盛ナラスヤ

抑蒙古ハ清初ニ於テ漢民ノ移住ヲ禁止セル區域ナルモ永ク此豐沃ナル土地ヲ荒廢ニ委スルハ天理ノ許ササル所ニシテ康熙

三ノ一

乾隆時代後東ヨリ南ヨリ流民ノ侵入スルモノ滔々トシテ禁止スヘカラサルニ至リ制ヲ設ケ治民機關ヲ置キ消極的ニ制御ニ來リシカ露國勢力ノ南漸スルニ鑑ミ光緒初年ヨリ一轉シテ土地ノ開墾ヲ進メ以テ今日ニ至レリサレハ東蒙現在ノ盛況ハ近々數十年ノ事ニ屬シ昨年四鄭鐵道ノ開通ト共ニ邦人ノ注目ヲ引クニ至レル鄭家屯ノ如キ尚四十年ノ歴史ヲ有スルニ過キサルナリ

如斯漢民移住カノ優越ナルハ確ニ賞讃ニ值スルモノアリ若シ此勢ヲ以テ進マハ東蒙三萬餘方里ハ今後十數年ヲ出テ斯シテ悉ク漢人ノ占據スルニ至ルヘシ然リサクトモ其肥沃地ハ皆蒙人ノ所有權ヲ脱シテ龍圃相連ル農園ト化シ彼輩漢人ヲ牢

乎トシテ抜クヘカラサル根柢ヲ築成スヘキハ其ノ既往ノ事實
ニ微シテ明ナリ

漢民ノ移住ハ蒙荒ヲ開墾シテ經濟力ヲ増進シ牧野ヲ變
シテ農園タラシメ我帝國ノ滿蒙啓發上將々經濟的發展上
頗に有益ノ事ニ屬ス然リ誠ニ有益無害ノ事業タリ然レトモ
扶手シテ其ノ為スカ儘ニ委セニカロニ親善ヲ稱シテ陰ニ排日ヲ實
行スル彼等ノ固性ハ據テ我優越權行使ノ範圍ヲ狹少ナラ
シムル結果ヲ齎スノ憂ナシトセス今ニシテ百年ノ長計ヲ立テス
ニハ挽回スヘカラサル悔ラ後世ニ貽スニ至ラン鑒ミサルヘケンヤ
罷ラ顧フニ農牧業タル風光明媚氣候溫和ナル我本國ニ於テ
スラ勞多クシテ収利少キノ業トシテ智識アリ教育アルモノ、敢テ

三ノ二

之ニ遠ラシトシ否ラサルモノモ往々田園ヲ去テ熱鬧ナル都會生活
ヲ希望スル現代ニ於テ遠ク烈寒沒趣味ナル朔北ノ野ニ移住シ
世ニ不潔ノ標本タル豚ニ類スル生活ニ甘スル下級支那農民ト伍伴
シテ牧農ニ從事セヨト勸ムハ恰モ臆病者ヲ驅テ彈丸而飛
一戰場ニ赴カシムト毫モ撰フナキハ理ノ當然ニシテ初ヨリ其ノ
成效ヲ期スヘカラサルナリ殷鑑遠カラス在満守備兵ノ満期者
中滿洲ニ留マルモノニシテ確實ナル農業（満鐵ノ給スル
土地ヲ耕作スル）ニ就クモノ
ノ少クシテ多ク他ノ如何ハシキ職業ヲ求メハ一旦農業ニ從事
セル者モ中途挫折シテ歸國入ハ轉業スル筆ニ見テ明ナリ
前述ノ如ク邦人ノ蒙荒開拓ハ口之ヲ言ヒ易キモ其實行ハ頗
ル困難ノ事業ニシテ當合實現ノ公算足シキ狀態ニ在リ

我羊毛ノ自足ハ内國ニ於テ之ヲ為スヘキモ尚廣漠タル蒙古ニ土地ヲ求ヘル策ノ得タルモノトス而シテ羊毛ノ自營ハ獨リ軍備上ノ問題ニ非スシテ平時對外貿易上ニ於テモ忽ニスヘカラサル重大問題ナリトスサレハ朝野ヲ問ハス與ケテ此問題ノ解決腐心スルト難奈何セシ我本國ニ於テハ現在綿羊ノ數僅ニ四千餘隻キタルニカ將來ニ於テモ自給ニ足ル頭數ヲ得シコトハ諸般事情之ヲ許ササルモノアリテ勢力ヒニフ廣漠ナル滿蒙ニ求メサルヘカラス蒙古開拓ノ要實ニ兹ニ存ス

然ラハ如何ニスルラ良策トスヘキカ是即チ最モ講究ヲ要スル案件ニシテ俄ニ斷スル能ハサルモ現在ノ狀況ニ於テハ如何ニスルモ土地ノ権利ヲ得ルコト困難ナリ故ニ條約ノ命スル如ク合辦事

三、三

業トシ之ニ投資スルノ外方法ナク而シテ日本人ノ智識階級ノモニシ用ヒ勞働ニ從事スル農民ハ勤勉丸漢人ヲ用フルヲ得
兼トス

邦人ノ土地收得ニ就ク議論ナキ非サルモ要ハ日支親善ヲ主

トシ合辦ニモ目的ニ達成セハ可ナリトセサルヘカラス

土地ヲ得難キ一例トシテ國賊條例ヲ掲ケテ参考トシ尙本年三月ヨリ四月ニ亘リ開魯方面ヲ旅行セル余ノ派遣者カ遼河流域ノ調査及開魯縣知事トノ問答ハ此邊ノ消息ヲ明ニスル材料トシテ参考トナルヘキニ併添付セリ

(附) (一)

懲辦國賊條例(民國四年六月二十二日)
(公布教令第二五號)

第一條 本國人民ニシテ外國人ト勾結シ賣國ノ行為ヲナス者、
國賊ト爲シ治スルニ賣國罪ヲ以テス
賣國罪ハ大理院或ハ軍政執法機関ニ審判入
第二條 左ノ各款ノニ該當スルモノハ賣國罪ト爲ス
一、外國人ト勾結シ本國々家ノ治安及人民ノ公共安寧秩
序ヲ擾乱セント意圖スル者
二、私ニ外國人ト契約ヲ訂結シ本國々家ノ権利ヲ損害
スル者
三、其他外國人ト勾結シ本國々家ニ不利ナル一切ノ行為ヲ
ナス者
第三條 賣國罪ヲ犯セル國賊ハ死刑ニ處ス
共謀者ハ死刑ニ處シ情ヲ知テ隠庇セル者ハ無期徒刑或
ハ一輩有期徒刑ニ處ス
死刑ハ銃殺ヲ以テ之ヲ執行スルコトヲ得
第四條 賣國罪ヲ犯セル國賊ニシテ他國ニ逃住セル時ハ先ツ
其財産ヲ沒收シ其接濟及交通ヲ断ツ
第五條 國賊ニシテ前條ノ情形アル時ハ缺席判決ヲ行ヒ死
刑ヲ宣告シタル後何處地方ニ在ルヲ問ハス方ニ斬獲シ
直ニ其地ニ於執行ス
第六條 國賊ノ賣國行為ハ其原籍及犯事地方ニ於テ列
名シテ其罪狀ヲ宣示ス
第七條 賣國罪ヲ犯セル國賊ハ何時ニ論ナク赦免スルコトヲ

得ス但ニ從犯ニシテ罪ヲ悔ヒ自首セル者ハ併乱自首特赦令ニ依リ具結立誓ノ規定ニ依リ免罪ヲ准予スルコト得

第八條 本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第二條第二項第三項ハ其解釋如何ニ由リテハ新ニ締結セル條約ノ履行上ニ勘カラサル障害ヲ其フヘキ疑議アルヲ以テ我駐支公使ハ外交總長ニ對シ談兩項、解釋ヲ要求シタルニ大理院ヨリ總檢察廳ノ質議ニ對シ指令ヲ與フル形式シ以テ本ニ項ノ意義ハ極メテ狹少ニシテ私謀私利ヲ逞ウセニカ為メ故意ニ本國ノ利権ヲ犠牲トシ外人ニ通シテ助ヲ求メ或ハ契約ヲ結フ底ノ行為

手五

ヲ指スモノニシテ又事商工上ノ損失ニ關シ間接ニ國家ノ利益ヲ損スルモノハ其施行當初ノ精神ヲ按レ故意ニ非ル時ハ本罪ヲ成立セサル意義ヲ各關係官衙ニ通報シ且各國公使ニモ通牒ヲ發シタリ然ルニ本解釋ニ依ルモ法網ノ範圍尚曖昧ニシテ明確ヲ缺キ支那人カ外人トノ合辦事業ノ如キモ若シ其見解照律ノ如何ニ依リテ或賣國罪ニ問ハレ死刑ニ處セラル危險ナシトセス故ニ今後支那國民ハ未測ノ禍害ヲ恐レテ或ハ日支合辦的、企業ニ應スルニトヲ逡躊躇スルニ至ルヤモ知ルヘカラス現ニ各地ニ於テ我商民ノ家屋ヲ借入レニトスルニ際シテハ無智ノ地方官等ハ其家主ヲ拘引シ其契約ヲ破毀セシメ土地ノ

商租ニ對シテモ所有妨害ヲ加ヘ其手段ハ千變一律悉ク
其所有支那人ヲ拘引處刑スルニ見テ明カナリ如斯ヲ以テ
本條例發布、結果ハ我國ノ獲得セル滿蒙新條約履行
上甚大、障礙ヲ及ホスモノト云ハサルヘカラス
蒙古王公及蒙古各地ノ支那官憲ハ今日尚此條例ヲ
根柢トシテ邦人ノ發展ヲ陰ニ陽ニ妨害レソツアリ

(附)

西遼河流域開放地ト邦人

1. 白音他拉方面

一、邦人土地所有者

注意、老哈河渡河困難ナリシタメ白音他拉滯在二日半ニ及ヒ

三ノ六

タルモ正志農牧場亦青河々南ニアルヲ以テ實地ニ就キ見聞ス
ルヲ得サリシハ最モ遺憾トスニ所ナリ左ニ邦人所有地ノ概況ヲ
述フルモニ支那人ヲ擇リテノ調査ニシテ邦人亦秘密ヲ守ルヲ以テ
單ニ風聞推測ニ足ラサルヲ憾ム、奉天佑々江事務所ニテ聞キ
得タル稱信スヘキモノヲ掲クレハ

佑々江氏

百二十方地

確走

早間氏

八十三方地

確走

大倉組

六七百方地

老哈河北ニアリテ縣ハ寧中

佑々江氏

四百七十方地

縣寧中

大倉組佑々江氏

二百方地

1. 佑々江氏、招田公司ト稱シ錢家店ニアリ土地ハ錢家店ノ南

八支里八十方地（現在開墾三平方地）及錢家店、西南三十里支里
哈拉和碩附近早間氏、農場ト一小河ヲ隔テ、四方地アリ此附
近一帶一昨年九月下旬地券、下附ヲ見タリ

只早間氏、前述哈拉和碩附近三アリテ（八十三方地）正志農牧場
ト云フ、ニシテ確實ニ獲得セルモノニシテ滿鉄ヨリ公然調査未
リタルニトアリ、

ハ大倉組、現在著手シツアルハ錢家店ノ北ニ十五支里新白音
他拉附近ノ上地ナリト、大倉組ノ先年調査セル地域、概略ハ
左ノ如カリシト、

河北、ハーラインズ、オーボインズ、ナムタ、シーバイニズ
河南 南ガホワ、シンナイレ

キノ七。

等ニシテ通達鎮北方ニ及ハス、而シテ奉天ニテ聞キ得タル大倉組
懸案中、大七百方地ハ河北ナリト称スルヲ以テ佑々江氏ト係争
オナルニ百方地ハ河南「シンナイレ」方面ナラント察セニル、モ一説ニ
原東大倉組ノ土地買収ニ著手セルハ牧場經營ノ目的ニテ河
北ニ八九百方地、土地ヲ求メタルモノノ間佑々江氏ノ既ニ著手セ
モノニ百方地ヲ含メリト

二、係争ノ眞相（一）招田公司ハ一昨年下附セラレタル地券ヲ抵
當ニセし師公司ニ金ヲ貸附ケタル事、張作霖ニ探知サレ張ハ之
ヲ取消レ更ニ大倉組ヨリ所要ノ借款ヲ起シテ地券ノ授與ヲ迫
マリタリ、然レバ招田公司ハ既ニ之カ開墾費トシテ投ニタル資金
少カラサレハ之カ賠償ヲ終ニサレハ地券ヲ渡スヘカラスト主張シ現在

ハ大倉組對招田公司トノ係争ニ移リ、這面佐々江氏ノ上京ハ直接之カ解決ラ、求メンカタメナリト推測サル（或ハ議會ノ問題トナサントセシモ、事國際問題トアルヲ恐レ議題トナスニ至ラサリシト）
木、佑々江氏懸案中ノ四百七十方地、是ハ同氏事務所ヨリ出テタル
言ナヒラ以テ疑ラ容ル、ノ餘地ナキモ白音他拉方面ニハ遂ニ其
眞相ヲ知ル得ス、或ハ開魯方面ニアリテ馬子和ト稱スル者三
井ヨリ來レリトノ事ナレハ此方面ナラント揮査セシモ後述ノ如ク不
明ニ終レリ

要ニ大倉組ノ日支合辦經營ラ聲明スル外ハ皆支那人名義
ニテ置收ラ終ルモノニシテ土地獲得、容易ナラサル亦知ルヘン

二、支那官憲土地所有者

三ノ八

當地方土地拂下前ニ於テ奉天省官憲、有力者ハ全部拂下
豫約シ荒務局、幹部ハ此等ノ推薦シタル代表者ニヨリ組
織セラレタル等ノ關係上當方面ニ於ケル上地ハ殆ト彼等ノ所
ナリト稱スルモ^謬言ニ非ス、左ニ公司名並ニ關係者、所有地積、大
約ヲ舉シレハ

三舍堂 漢作霖 三百方地

錢家店附近河南

三義堂

原列臣、漢作相
張作霖

一百方地

公益公司

二十七師幹部連

三百方地

約六十六方地
枕頭窩棚附近

河北

鮑貴卿

吳俊陞（德勝堂ト称シ通達鎮北十五丈里五道木）

根據ヲ有スルモ個人たるヤ三十人師ナリヤ不明

二百方地 大罕河北

馬隣閣

三十方地
九家子一附近
大罕附近
ハラミニドー

等ニテ農民人總称シテ二七師公司ト云フニ七師公司ハ錢家店、
東北十五丈里一棵樹(ニニ七師寫棚トモ稱ス)=該事務所ヲ置キ
錢家店其他各處ニ耕地監督及啟言備分局ヲ設置セリ、一說
“河北未拂下地ヲ豫約済タル以テニ七師公司ノ所有地ハ三千
六百方地ト稱シ附近農民ヲ自由ニ使役或ハ役畜ヲ徵収シ
農耕ニ從事セシメバアリト

三、地價

此附近ノ土地ハ悉ク新拂下地ニ属スルヲ以テ地價ノ如キニ作物
豐凶及世上ノ氣如何ニヨリ支配サレバアルモ地價ノ般ニ騰貴

三十九

ヤルハ疑ナシ、今其一例ヲ示サハ兩三年未鄭家也、白音他拉間鐵
道布設、聲漸々喧シクナルヤ白音他拉停車場及宅地豫定ト
シテ小街基、及大街基東西兩端ヨリ以南八一方地五千五百元
(早間氏最近確定)ヲ稱ヘフ、アルノ狀況ナルモ普通、地價ハ一般
調査事項參照)尚孔家窩棚錢家店方面ハ一千三百元内外
ナルカ如シ

一昨年ハ近年稀ナル凶作ナリシタゞ土民ノ引揚クルモノ多ク地價
非常ニ下落シ上地九百元ヲ稱ヘタルコトアリ、其他一天地五元乃至
十元内外ニテ抵當トナシタルモノナリト聞ク、現在ニ於テ五方地以上ノ
大段地域ハ容易ニ取ムル能ハサルナリ

次ニ附近ニ於ケル邦人中土地ヲ抵當トシテ次貰金ヲ貸典セルモノ

一ニヲ示セハ

三泰號燒鍋(大穴)

三十方地

期限満了

自在丸

五十五方地

期限満了ナルキ続不備ニテ
毎年中

添田、自在丸

四十五方地

開魯縣三萬シ元義和公司
所有ノ一部ニ属ス期限満了

四農產物相場

當地邦商公泰淳糧店ニヤキ例年高根相場ヲ聞クニ

時 期	大正三年	四 年	五 年	六 年	七 年
買 取 期	五一六 角	六 角	七一八 角	八一六 角	大 角
翌年夏	二一一三	二八	八一六 角	二〇	

備考 一斗ヘ四十五六斤アリテ我約一斗九升六合ニ相當ス

三十

買取期ハ十二月トス

大正三年以来本年ニ至ル五年間ニ於テ四年及七年ヲ除カヘ其他
ハ何レモ凶作ナリキ、而シテ當地ハ夏季南方各地ヨリ移住シ來
ルモノ多々金融逼迫スヘラ常トシ穀類相場ハ此時期概不鄭
家也ヨリ高價ナルモ鄭家也當地間、運賃ハ普通三元(一件)
夏季ハ交通最モ不便ナルタメ五元(昨年)以外ニ達スルコトアリ
穀物ノ販入全然不可能ナル結果當地ニ於ケル糧店ハ單ニ之
翌年迄持越スニニテ相當ノ利ヲ占メワマアリ

(但シ大正五年ハ前年豐作ナリシタメ附近村落ノ在荷多々收穫
前俄ニ相場下落シ(八角)糧店ヘ一時恐慌ラ未シタル例アリ)

尙昨年、谷子及大麻子、相場ヲ示サハ

谷子 八角乃至七角

大麻子(三九升) 先物三元 現物二元ニ三角

五、地租

民國元年拂下タル土地ニ対シ昨年ヨリ地租(一角)及附加税
トシテ一天地ニ付三角完ヲ取立テソアリ。

六、錢家店ノ位置

錢家店附近ハ前述ノ如ク潘家店、白音他拉間ニ於ケル地味
最モ肥沃ニシテ且土地高燥ナル土地ナレハ附近各村落ト異ナリ水
害、恐少ナク特ニ将来白音他拉ニ至ル鉄道布設サル、トセハ必
ス當地ハ農産物ノ集散市場トシテ亦河北蒙古部落ト
ノ交通ノ關係上(現在解氷期ニ於テ何等支障ナシ)最モ重

ミノ土

キラナスニ至ルヘキヤ疑ラ容レス

白音他拉ハ小街基水災後奔達セル—都市タリト雖例年解
氷期ニ必ス溢水シ為メニ附近村落トノ交通全ク杜絶スルノ
現況ナリ、或ハ當地ノ發達ノ土地所有者タル吳統領其
他支那官憲ノ地價高騰策トシテ從前ノ都市タル小街
基ニ家屋ノ建築ヲ禁ニタル結果不自然ニ發達セル市街
タリトモ称セラル

因ニ昨今當地附近宅地ノ地券ヲ下附シウ、アリ

七、最近土地拂下ノ風説

鄭家屯、白音他拉間鉄道ノ布設サル、トセハ溫都魯旗ノ
一部及「トコロジ」山貝子府(一千餘方地位)ノ一部ハ開放セ

ラル、遠キ非ルヘキモ若シ鉄道布設未定トスルモ白音他拉ニ至ル電線架設ノ上ハ必ス拂下ラ見ルヘントノ風説アリ

口開魯方面

一、土地開墾公司

最近東西札魯特旗一部土地拂下ラ實施スルヤ開墾自的トスル公司ノ設立セラレタルモノ多キモ現在開魯市街ニルハ華峯公司、殖迦公司（隆育長公司ノ代弁）ノニアルミニ過キスシテ其他北方拂下地内ニ存在スルモノニ集義公司、實業公司、永盛公司ノ三アリ、而シテ是等公司ノ裏面ニ邦人ノ關係セルモノ少カラサルモ表面絶対ニロラ減シテ稱セス殊ニ後三者ハ何レモ縣ヲ距ツル遠隔ノ地ニ存在セルラ以テ

三一十二

其内容ハ勿論所有地積サヘ知悉スルヲ得サリシハ最モ遺憾トスルトコロナリ（市井ノ支那人ハ既ニ外國人ノ染手シツハアルラ知しリ）

左ニ其概略ヲ示セハ

イ、華峯公司（伊豫組）

昨年一月ノ設立ニ係リ經理ラ馬翡翠豪及陳榮恩ト稱シ（兩者共不在）所有地積ハ元ト義和公司ノ所有セシモノ、内五百方地ヲ讓受ケ後更ニ交渉ノ結果現在確定セルモノハ

新開河以南 八百餘方地

サンール、ケーラマニチニ、ハラモト
照各處地方

ノ以北 未測量

ニシテ小作人ハ多ク當地ニテ募集セリ而シテ現在開墾地百

餘付犁杖（一付犁杖二頃七十畝）アリ招請ノ規定ハ立章程
(峯氏ト馬頭翠豪トノ契約書)ニ照シテ實施シツアルヲ以テ
省略ス

七、殖辺公司(石川五郎氏関係)

隆育長公司ノ設立マテ、代辦ミツアルモニシテ經理ラ李湘浦
ト稱シ原ト殖辺公司ニラ拂下ラ出願セシモ股東集マラス遂
隆育長公司ニ讓レリ地積ハ一千六百方地ニシテ東西札魯
特旗ニ亘り昨年拂下仮契約ハ成立セシモ未タ地照ノ下附ラ
見ス

八、集義公司

當地ヲ距ル東北九十支里套頭管子ニアリ經理ラ蘇姓(アシ)ト
ミナミ

稱シ官銀ヲノ設立ニ係リ既ニ七八年ラ経過レ大部分開墾
ヲ終レリ、地積ハ不詳

奉天佐々江事務所ニ於テ聞キ得タル京口、松井西氏、關係
セル土地ハ農務會ニ關係セルモノトノコトナレハ或ハ當公司ニ非
サルナキカ(當公司トセハ大約五百方地ナリ)

九、永盛公司

一昨年當地ヲ距ル北百五十支里(南界)ニ於テ四十分地ノ拂
下ニ受チ公司ヘ拂下地内ニ昨年設立ニ天津王安亭一個人(?)
モノタリト、土地ハ西札魯特旗ニアリテ招戸(小作人募集)ハ既
ニ終ハリタルモ未タ開墾ヲ終ラホト

十、實業公司

鄭家屯同益輕便公司、王子明、馬子和之、関係セルモナルモ公司ハ未タ設立ラ見ス當地西札地局内ニ住メルモ現在兩氏共不在ナルテ以テ本街包姓代理ヲナンツアリ、土地ハ昨年東西而札旗ニ亘ル北百四十支里以北ニアル六七百方地ナルモ未タ小作人ヲ募集スルニ至ラス

以上ノ外現在既ニ解散セルチ、内義和公司ナルモノアリ同公司ハ原ト五百三十方地ノ拂下ヲ受ケ資金二万五千兩ト公稱シ既ニ八十七戸ノ招募ヲ終リシモ一昨年經理李文峯ノ死去後股東ノ此事業ヲ繼續スルコトヲ欲セス（死去後ハ詳細ヲ知ル能ハサルモ彼一人私腹ヲ肥ヤシタリトモ稱シ或ハ外國人之ニ干係セルコト露見セリトモ云フ）遂ニ荒務局ハ之ガ拂下ヲ取消シタルヲ

三十九

以テコノ土地ノ内三百餘方地（或ハ五百方地説アリ）ハ華峯公司於テ新ニ拂下ヲ受テ其餘ハ各領戸ニ於テ川受ケタリト稱ス

二、土地所有者

當地附近大段所有者ハ前記五公司ヲ除ク外ハ何レモ三四十頃ヲ有スルモノニシテ是トテ整地（纏マリタル地）ニ非スレテ各處ニ散在セルキナリ

（二）三知事、合辦農業經營ニ關スル意見

拂下地ハ既ニ大略拂下ヲ終リタリ将来ノ拂下豫定地ハ未定ナリ、而シテ既拂下地内大段ノ拂下ヲ受ケタルモノハ馬翠豪ノ五百方地（河南）並王子明ノ六百方地（河北）ニ過キス其他ハ五六方地ノモノヲ最大トス

△一個人ニカク廣大ナル土地ヲ所有セシメ所謂借地養民ノ目的ヲ
眞徹セシムルヲ得ルヤ否、若シ眞ニ借地養民ノ意ヲ徹セシメ
ントセハ最大及最小限度ヲ定ムルヲ適當トセスヤ

○蒙地開放ハ勿論借地養民ニテ以テ實際ハ蒙地ヲ開放
スルニ際レ最大最小限度ヲ定ケルヲ適當トスルモ既ニ蒙古旗
王ノキヲ離レタル以上漢人ヘ何時ニテモ開放地帶ニアリテ耕作
ニ從事スルヲ得ルヲ以テ是ニテ既ニ借地養民ノノ目的ヲ達シ
タルナリ而シテ此度ノ拂下ニ際シテ最大限度ヲ定メサリシハ元
來當地方面ニ来ル漢人ハ家ノトシテ數フルニ足ラス若シ此時
ニ於テ一個人幾何以上ヲ所有スル能ハストセハ開放ヲ終ルニテ數
年月ヲ要スルニ至ルヘク、カクテ中國政府並ニ蒙古旗王ノ第一

三一十五

ノ目的トスル土地賣上金ノ收入容易ナラズ故ニ政府トシテハ最大
限ヲ定メス幾何ヲ買取ルモ差支キ様ニセリ、又之ヲ一面ヨリ
觀察スルニ大段拂下者ハ後來更ニト領戸ニ賣却スルヲ
以テ結局荒務局ニ代ハリテ拂下ヲナン何等支障ナシ

△大段所有者カ将来荒務局ニ代リテ拂下ヲナスト称スルモ
大段所有者ハソノ間多少利得セサルヘカラズソノ結果、拂下
ノ二年連レタルカ為同シ土地ニ対シ利益ヲ壟斷セラル、結果ト
果トナリ眞ニ移民ノ目的ヲ以テ來ルモノニ対シ不公平ノ結果ト
ナラサルヤ若シコノ間悪蝶ノ人アリテ不當ノ地價ヲ貪ルノ弊
ヲ生セサルヤ或ハ大段所有者ハ其他ノ目的(農業經營等)ア
リテ拂下ヲ受ケ又拂下ヲ許可セシモノナルヤ

- ①或ハカル激昂ナキニ非ルモ前述ノ通り土地拂下ハニ拂下代金ノ
收入ヲ目的トシタルト他ハ大段所有者ハ其マテ土地ヲ放置シ相
當ノ地租ヲ納メサルヘカラホル等ノ干係上地價ノ高騰ハ自然
ノ結果ニシテスニラシテ忍ニテ大段ノ拂下ヲ受クルモノハ稀ナ
△然ラハ馬、王等ハニ土地轉賣ノ目的トシタルモノナルヤ或ハ外國
人ト将来此附近ニ於テ農牧ヲ目的トスル大會社ヲモ起サシトセ
シキナルヤ被華ノ意志如何
- ②彼等ハニ地價ノ騰貴ヲ見越シテ拂下ケラ受ケタルモノニ
エテ別ニ大會社ヲ起サニ等ノ意ナシ
- △此方面ニ於テ日支合辦農業經營ニ對スル貴意如何
- ③近來盛ニコノ意ヲ漏ラスモノアルモ、コハ容易ノ業ニ非ス、特ニ
三十六
- 商業上ノ合辦ト異ナリ土地ニ干係スルニナルラ以テ之等ハニ
ニ中央政府ノ命令ヲ仰カサルヘカラス
- △或ハ中央政府ノ命令ヲ仰カサルヘカラサルヤモ知ルヘカラスト雖地
方長官トシテノ意如何
- ④商業上ノ合辦ハニ金銭上ノ合同ナルラ以テ比較的貿易ニシ
テ之ニ要スル家屋ノ如キ何時立退キ或ハ撤去スルモ差支ナキ
モノナルモ農業上ノ合辦ハ土地ヲ必要トシ而シテ土地ハ外國人ノ
買取ルヲ得サルモノニシテ若レ買取ルヲ得ルトセハニロ所有權及
處分權ヲモ獲得スルニ至ルカヘル結果ハ一國ノ主權毛闇係ス
ルコトアルヲ以テ經務章程中モ「領戸ハ本國籍人民ヲ以テ
限ケトナシ外人ノ資本ヲ借用シ又ハ外國人ニ抵當トナスラ得ス

若シニラ犯ミハ無効トナスナラ布告レアラ見ニ奉義和公
司ハ之ヲシモ犯シタルカタメ遂ニ無效ラ宣セラレタルナリ

△義和公司ト如何ナルモノナリヤ

◎義和公司ハ民國四年頃李文峯ナルモ、設立ニ係リ土地拂
下ラ受ケ現ニ民國七年マテ農民ニ轉賣セシモノ少カラス然
ルニシテ日本人ノ干係セルモノニ（拓殖會社カ何處カニ）抵當トセ
トセシモノナルヤ否ヤ人知ラサルモ要スルニ義和公司ニ日本人ノ開
倆ニ是ヨリ資金ノ出テ居ル蒙古王及ヒ我官憲ノ探知スル
所トナリ遂ニ兩者ヨリ拂下無效フ宣セラレタリ是カタメ轉賣
ラ受ケタル農民ハ既ニ土地代金ヲ拂ヒ居ルコト、テ兩者ノ訴訟
問題トナリ尚北京ニアリテ交渉中ナリ（昨年頃日本人三四名
キナガ

土地ノコトニテ未イタルニトアリ或ハニカタメナランカ）ニノ土地ヲ新ニ拂
下ラ受ケタルモ即チ馬芻革豪ナリ

△然ラハ條約文面ニアル農業及之カ附帶工事ヲ中日合辦
ニテナニ得ルトヘ如何ナルコトヲ指示スルモノナルヤ

◎前述ノ如ク土地ハ決シテ外國人ノ買取リテ所有トスル能ハサルヲ
以テ支那人ノ土地ヲ貸借シニカ経営ニ要スル資資金上ノ合弁ヲ
意味スルモノシテ土地以外ノ合資經營ナリ
△余カ此度ノ旅行ニ際シ或資本家ヨリ目下開魯縣方面ニ
於テ事ラ土地ノ拂下ラナシワ、アリ該土地ノ拂下ラ受ケ農業及
牧畜ヲ目的トスル中日合弁會社ヲ組織セニトス、故ニ開魯縣
知事ノ意見ヲ聽取シ吳レトノ依頼アリタリ、思フニ是華農牧

ノ事業ハ永遠ノ事業ニシテ特ニ高業ト異ナリ莫大ノ資
金ヲ要スル外廣大ナル土地ヲモ要ス、故ニ現ニ拂下ケツ
ツアル土地又ハ將來拂下ケントスル土地ヲ纏メテ買取
リ之ヲ經營セハ最モ捷径ナリト信ス

●眞ニ所説ノ如キ資本家アラハ最モ注意セラレタシ如
何トナラハ最近義和公司ノ如ク畢ニ仲立人ノロニ乘リ
(彼等ハ一ニ鎌絆ノ運動費又ハ手數料ヲ貪ラニカ為ソ土
地不案内ナル外人ニ付シ土地云々ヲ持行クモノアリ)莫
大ノ資ヲ無益ニ投資スルモノアルモ之ハニ其實情ヲ
知ラサルカタメニシテ前述ノ如ク土地ノ所有及处分權
ハ外人ニ讓ルヘカラサルモノナリ万一現在拂下ケツハ
アルモノ又ハ將來拂下クヘキ土地ヲ買取り得トスルモ

ミノナ八

更ニ困難ナルハ蒙民ハ文智未タ開ケス利權ノ外溢ヲ恐
ル、テ以テ若モ此事実ヲ知ラハ何時騷擾スルヤモ知レ
ス、カヘル際ニ兩國ノ國交ヲ不親ナラシムルノミニテ
何等效果ヲ收ムルヲ得ス故ニ前述ノ如ク土地以外ノ資
本ノ合辯ト雖余ラシテ謂ハシムレハ茲一二十年後交通
開ケ地方民ノ智識高上シタル後ニ非レ入貫行不可ナリ
ト信ス、特ニコノ時ニ於テモニニ土地ニ關係スルモノナルヲ以テ
中央政府ノ命令ヲ奉セサルヘカラス

△知事ハ交通便宜トナリ地方民ノ智識高上セル後ニアラサレバ
不可ナリト称セラル、モカヘル際ニ於テヘ土地ハ既ニ各個人ニ分散
シ纏マリタル土地ヲキニ入ル、ユト能ハサルノ恐レアリ特ニ之カ計画
ハ事業ノ著手ニ至ルマテニモ高多年ノ白子ヲ要スルヲ以テ若シ實際

コノ計画ヲ實行セントセハ現在即チ拂下當時ニ於テ之ニ所要ノ
土地ヲ豫定セサルヘカラス

①之ハ前述ノ如ク最も困難ナル一事ニシテ一地方民タル蒙漢人
、自覺ニ待タサルヘカラス中央政府ヨリ如何ニ云フトモ地方民ニテ自
覺セサレハ到底困難ナルコトニ屬ス現在馬蘭翠豪、王子明ノ所
有地トテ決シテ纏マリタルモノトテ前馬玉ヲ除ク外ハ五大方地ヲ有スルモト
地アリ未拂下地アリ

△地方民ノ自覺ヲ促シ又ヘ騷擾ヲ起サシメサルヘ支那官憲ノ
義務ニシテ大段ノ地ノ獲得不獲得ハ比較的ナリ

△現在コノ附近ニテ大ナル土地所有者八如何

②別ニ纏マリタルモノトテ前馬玉ヲ除ク外ハ五大方地ヲ有スルモト
最大トスルノミ

三十九

是レニテ愚問焉答ラホ切りタルモ知事ハ面識ノ事トテ容易ニ
意見ヲ吐露セス轉シテ西札旗會辦狄氏ヲ訪レタルモ王府ニ
歸リ不在ナリシハ誠ニ遺憾ナリキ

四、穀物相場並金融上ノ不便

當地ニ商賣及信託側ニテ設立セル鎮華實業有限公司

糧店アリ同店ニテ現在(三月未)ノ穀物相場ヲ聞クニ

昨年秋 五七一八 大豆 炒豆 黄豆 花米 大瓜
現在 四〇 四〇 四〇 二〇 一 三四〇

備考

一斗當開魯票建ニシテ當地一斗八我カニ斗

一升三合四勺當ル

而ニテ現在高粱相場ハ一斗四角ニシテ、白音他拉ハ大角五分十

ルモ運賃三角五分ヲ要スルヲ以テ到底輸送スル能ハス但レ昨年
豈作ナリシ為在荷多ク道路良好ナルカ為メナラン特ニ當地
熱河管内ニ屬スルヲ以テ北京交通票ノ流通最モ多ク交通票
ハ開魯票ニ対シ十二角ヲ公定相場トス、而シテ一度ヒ奉天省
管内ニ入ラハ悉ク奉票本位ナルヲ以テ昨年八、九、十月頃ノ交
通票一元ハ奉票入角、相場ヲ持續シ又モ本年一二月頃
ハ奉票一元ハ市票九角ニ相當セリ現在ハ市票十二角奉
票一角ニ相當ス、斯ク貨物亦相場常ニ様ナラス、特ニ高
裕會ハ何時ニテモ公定相場ニテ市票ト交換スルコトヲ声明ス
ルモ交通票及市票ノ奉天票ニ対スル相場如何ニヨリ容易
ニ交換ヲ欲セス當地商戶ハ常ニ之ヤタメニ困却ニ居シリト
因ニ四鄰鉄路開通前ハ小庫倫、錦州方面ヨリ官呉貨物

物ノ輸入大部ヲ占メ居タルモ現在ハ鄭家屯方面七分カ庫倫
方面三分ノ状況トナリ